



岡山県 倉敷市消防局  
消防局長 片山 龍三

### 自然の恵みと ひとの豊かさで 個性きらめく倉敷

当市は、岡山県の南西部に位置し、瀬戸内海と一級河川の高梁川の恵みを受けて、遠い昔からその歴史を刻んできました。江戸時代には天領として栄え、美観地区の倉敷川河畔には白壁土蔵造りの蔵や町屋が立ち並び、文化と観光の街として全国からたくさんの観光客が訪れています。平成17年8月には、吉備真備公ゆかりの真備町、マスカット王国の船穂町と合併し、人口は約48万人、中国地方では、広島市、岡山市に次ぐ



第3の都市で、気候は温暖で年間を通じ降水量は少なく、昔から災害の少ない地域です。

### 災害に強い「安全・安心のまちづくり」を目指して

当市の消防体制は、1局（4課）4署3分署8出張所であり、464名（うち再任用職員13名）の職員と1,997名（うち女性団員80名）の消防団員が一丸となり、消防事務を受託する隣接の早島町と浅口市金光町を併せ、管轄面積383.34km<sup>2</sup>、人口50万4,981人の安全・安心を担っています。



救急現場で脳卒中の重症度を評価し、t-PA静注療法実施可能な病院へ迅速に患者を搬送



し、後遺症をできる限り残さないようにするシステムであるK P S S (Kurashiki Prehospital Stroke Scale) や、「救マーク」制度の導入、また、国内有数の水島コンビナート地区の保安防災に産官学が協力して、世界最高水準の安全なコンビナート実現のため、様々な取組を続けています。

当局では本年、コンテナ、平ボディ積換え式の積載車を導入し、高度救助資機材等を予めコンテナ内に収納しておくことで、約2分でコンテナを選択、積載し、出動することができるようにするなど、消防装備の整備充実も図っています。

### 「安心して暮らせるまち」を目指して

当市では、平成16年9月に発生した台風16号、台風18号の大雨による甚大な被害を経験し、消防庁舎の新築移転をはじめ、近い将来に発生が危惧される東海・東南海・南海地震に備えるため消防防災体制の充実強化を図ってまいりました。

今後とも、あらゆる危険性を想定し、消防組織力の強化を目的に若手消防職員を対象とした消防活動基本訓練をはじめ、消防団員の確保と自主防災組織の育成強化、地域住民の防災意識の向上と住宅用火災警報器の普及促進、コンビナート防災体制の強化等を図り、「安心して暮らせるまち」を目指して消防職団員一丸となって取り組んでまいります。